



森の守護神

森ボラ 通信

第 188 号 2018 年 1 月 20 日発行

NPO 法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸 1 条 1 丁目 9-6 ラルズビ

ル 3F Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com



2018 年
年頭のご挨拶



理事長 横山 清

われら森を育てる人

新しい年を迎え意気軒高たる毎日と拝察いたします。

本年も健康第一であらゆるものに挑戦すべく、碎身の努力を致しましょう。

会員はじめ関係各位の努力により当協会の活動は全国的にも高い評価を受け、更なる躍進が期待される所です。特にユネスコ、オイスカ、CGCグループなど私達が目指す長期に亘る地球環境問題への取り組みに密接な関係を維持し、率先して実践するグループの存在もまことに心強く、モチベーションが高まるエンジンです。木を植え、枝を払い、下草を刈る…これらの仕事を指導し垂範する協会の役割は重大です。

さて、変わった話題で締め括ります。フィンランド人にとって森は保護者であり飢饉の時には森からパンの材料を貰いました。松の樹皮をはがし柔らかな部分を乾燥させ挽いた粉（ペットウ）を麦の代用品としたのです。食べ過ぎると水腫や消化不良を起こしますが、今では健康食品として開発されており、食物繊維、ミネラル、フラボノイドが体に良いとされ、ライムギの60倍もする高級品のようです。

植樹に携わる者として、このような幻の植樹などを夢見るのも一興です。何はともあれ、この一年間を奮闘・努力致しましょう。

トピックス

木道の架け替え・11月29日中流木道の架け替え終了



今年の夏に中流橋が腐って落ちてしまいました。この橋は途中で補修はしましたが11年目になり全く新しく架け替えとなりました。何故か木道工事は寒いみぞれと泥の時期になってしまいます。ご苦労様でした。



ホタル保全の木道、きっかけは一通のメールから

右精進川にホタルが見つかり川筋を踏み荒らさないように保全のために木道づくりが2006年秋に始まりました。

>>2006年8月3日 受信メールから<<

森林ボランティアの方々 回廊基金のにつたです。

お世話になっています。休会申し入れのFAXの後、お礼のメールを出そうと思いつつ本日になってしまいました。さて、昨夜澄川都市環境緑地に行きましたら、ホタルがすごかったのでお知らせいたします。8時ごろがピークのように、しいたけの木のある所です。ピカ！ピカ！とあちこちで光っていますので是非ごらんください。もう見ていらっしゃるかも知れませんが……

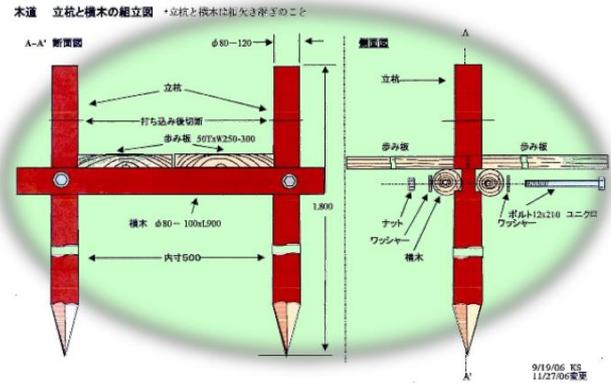
とりあえずお知らせまで……

新田啓子

構造は尾瀬沼の旧木道から

東京電力の尾瀬沼の木道から真似たものでした。今回の木道も幅を 500 から 700 にした以外は全く同じです。

澄川では杭よりも横木のボルト穴部分が腐ります。（文・酒井）



活動報告

◆冬季セミナー 樹木の病気の話+腐朽病害の話

2017 年度最初の冬季セミナーが札幌エルプラザで 23 名が参加、森林総合研究所の山口岳広先生をお迎えして開催されました。沢山のスライドを見せて頂き解り易い説明は我々が森で良く目する木の病徴へのヒントとなるお話でした。先生のご講演を要約しました。

- 樹木の病気（病害）は・・・健康な樹木はその種特有の生活を営み、枝葉を繁茂して（成長）、開花結実（生殖）することが出来るが、継続的な刺激によって異常な代謝現象が病気（病害）と呼ばれる。但し一時的な刺激は傷害であり、病原菌の侵入門戸として重要である。経済的損失（災害）が問題になる場合⇒病害と云う。



- 病気の原因・・・病気の原因となる因子を病原と云い、ウイルスを含む生物性を病原体と称する「主因」。発病を助長する土壌条件、気象条件、大気汚染物質等の環境条件「誘因」。病気の発生（成立）は樹木（素因）、病原体（主因）、環境（誘因）の各種の条件が整った時に発病する。

- 病気の診断・・・樹木が発症して外部に形態異常を示す場合を「病徴」と云い、複合した病徴が現れる事が多々あり、病原菌が異なっても似たような病徴が現れる。同じ病原菌でも別の病徴が生じる事がある。症状としては変色・穿孔・萎ちょう・焼枯・肥大・てんぐ巣・萎縮・わい化・ミイラ化・器官の脱落・壊死・枝枯（腐らん）・腐敗・分泌等が生ずる。病原体自体が罹病植物上に肉眼で認められる場合を「標徴」と云い糸状菌が目立つ、細菌では細菌粘膜のみ、ウイルス、ファイトプラズマは不明瞭、中～末期の症状で湿潤状態が著しい。

- 防疫・・・病気の三要因への働きかけ相互関係の切断あるいは防止⇒被害の予防蔓延の防止。A) 主因の制御・・・病原体の侵入防止、伝染環の切断。B) 素因の制御・・・抵抗性樹種、品種系統の選択、抵抗力の増進とその変化の利用。C) 誘因の制御・・・適切な育苗管理と菌畑環境の改善、適地選択と育林施業による環境の改善。

・流行病について・・・世界四大病害としてクリ胴枯病、ニレ立枯病、ゴヨウマツ発疹さび病、マツ材線虫病、日本国内ではマツ材線虫病、ナラ枯損被害いずれも青森県以南で発生。なぜ流行病となったのか？・・・人間の経済活動が大きく関与している。病原体媒介者が付着した樹木、材木を長距離移動・媒介者増大の温床となる条件がつけられている。エネルギー源の転換、薪から石油へ、一枯木の放置、薪炭材の放置による里山樹木の径大化。

- 農薬を使用する時に注意すること・・・使用方法（使用量、使用回数）を守る。適用対象作物がどうかを確かめる。農薬登録が失効していないか注意する。廃棄処分方法にも注意。

- 立木腐朽（病害）：材質腐朽病とは・・・菌類（糸状菌類、真菌類いわゆるカビ・キノコの仲間）によって起こる。生きている樹木の材内にこれらの菌が侵入し、樹木の木材の細胞を分解して栄養

源として生活。通常なら硬い木材がもろくなったり繊維状になり軟化してしまう。ひどいものは材が消失し空洞になる。

病害への対策・・・基本は回避対策、特に根株腐朽は立地条件の影響が大きい。

・伐期の短縮⇒被害拡大前に収穫・植栽箇所の選択⇒不適切な処に植えない・樹種の変更・広葉樹との混植・広葉樹化。

明らかに腐れ木の状態であれば「病気」と判ります。人間の様に「どこが悪い」と云えない樹木の場合は、わずかな木の変化を見逃さない様に注意深く観察することが健全な森林づくりに繋がると思います。(文・小笠原)

◆きたネット北海道環境活動交流フォーラム」に参加して

12月9日、きたネット主催によるフォーラムに北海道森林ボランティア協会から12名参加しました。

1. 中村太士教授「森・川・人の繋がり、北海道の生物多様性を守る」
2. パネルディスカッション「北海道の森と生態系を次世代へ～人のデザインと人の役割」
3. 斜里町 玉置倉司氏「しれとこ 100 平方メートル運動 40 年成果、そしてこれから」
4. 分科会 森林保全活用「私が生きる森！森を生業とする新リーダー育成のために」



約 160 名が参加し学生さんらしい若い人が目立ちました。全体を通して自然を保全していくには、環境、人、金に課題があること、私たちボランティアの役割も大事であると感じました。

きたネットフォーラムの録画はこちらです。→<http://kitanettv.blogspot.jp/> (文・矢野)

◆澄川南小学校 5 年生ネームプレート作りに挑戦

11月29日学校の工作室で5年生52名は澄川で取れた間伐材を利用してネームプレートを作りました。前もって子ども達には下絵のデザインを描いてもらい当日はバーニングペンでなぞりながら思いがこもったネームプレートが出来上がりました。



クーピングペンで絵付けして出来上がりです。ほとんどの子どもが熱く熱せられたバーニングペンは初めて、最初はおっかなびっくりの手さばきでしたが、慣れると下絵よりも迫力のある作品となりました。紐でくくったプレートは子ども達がどの様に使っているのか興味深々です。(文・事務局)

◆『森ボラ図書コーナー』案内

今回は会員の荻田さん、佐野さんの希望により「森林・山村多面的機能発揮対策事業交付金」を活用して購入した図書を紹介します。閲覧、貸出し、今後の購入希望図書がありましたら市山、樫棒まで連絡をお願いします。(文・樫棒)

森ボラ図書コーナー蔵書

番号	図書名	著者	発行所	本体(円)	購入年月日
50	『森が消えれば海も死ぬ』	松永 勝彦	(株)講談社	800	2017/12/18
51	『森の科学』	中村 太士、小池 孝良	(株)朝倉書店	4,300	''
52	『自然は誰のものか』	石城 謙吉	エコ・ネットワーク	1,500	2017/12/20

■今月の幹事会

出席者：市山・大窪・荻田・樞棒・加藤・清澤・酒井・佐野・高野・釣井・西野・矢澤・和田

次世代に繋がる新しい年 2018 年に向かって・・・酒井代表からの挨拶の骨子

- ①森林管理の技術と知識の向上
- ②社会から協会を知って貰うための方策
(人材確保ー若い世代の取込・・・土日ボランティアしませんか)
- ③持続的発展のための方向性の明確化(総会、幹事会、例会、年間スケジュール)

1. 2018 年 2 月、3 月スケジュール・・・幹事会 2 月 2 日(金)
2. 澄川基本計画骨子作成・・・ワーキンググループ(WG)立ち上げ打ち合わせスケジュールの確認
3. 第 3 期親子森林教室応募状況・・・チラシ配布
4. 2017 年度森林・山林多面的発揮機能対策進行状況・・・今年度の活動報告は 2 月で打ち切り多面対策事業普及セミナー(2/14 東京)で活動報告
5. ダニ媒介脳炎の周辺情報・・・関係機関からの情報収集と会員へのフィードバック刺されないための準備(服装・・・顔ネット、首巻、手首巻、ズボンの裾巻),スプレー等の薬剤
6. 協会創立 15 周年活動記録編纂の進行状況
3 月幹事会までに 2012 年から 2016 年の活動記録を纏めて報告
7. 委員会報
冬季セミナー
1 月 18 日(木) 札幌市防災協会 活動現場における安全講習(90 分)
2 月 14 日(水) 青少年科学館 学芸課 守屋 開先生
3 月 14 日(水) 北海道教育大学 名誉教授 木村方一先生
8. その他
 - ・森林再生と環境保全推進フォーラム 2018in 北海道の協力要請
オイスカからの要請で協会、えこりん村の 3 団体で今後協議をして行く
 - ・2017 年 12 月会計報告

★ 新入会員紹介：新田啓子さん 11 月に再入会 ★

「一通のメールから 2006 年にホテル保全のための木道整備開が始まりました」の新田さんが森ボラに再入会することになりました。大歓迎ですね。

■活動履歴

月日	行事・活動地	参加数	参加数
1月 5 日(金)	ラルズビル	13	定例幹事会
1月 10 日(水)	澄川	18	酒井さん安全講習会(枯損木のクリ、ヤナギで実習)
1月 13 日(土)	澄川	17	E-3 整理間伐
1月 15 日(月)	澄川	19	E-3 整理間伐